

混み合う競技場は、 私のことをあざ笑うようにずっと騒がしい。

「並べ替え小説」とは

この企画「並べ替え小説」は、物語をバラバラにして並べ替えたものを 皆さんに組み替えていただき、その過程で「紙を切る」という行為に 思いを馳せてもらおうという企画です。

勉強のこと、夢のこと、生活のこと、それと恋。

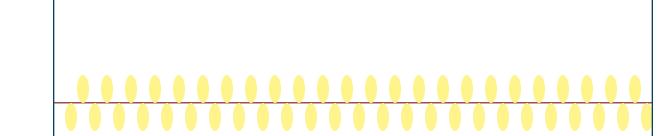
思わず見惚れたわたしの前髪を風がかきあげた。

そこに諦めるなという声が聞こえた。

君の目の綺麗なことに気づいた。

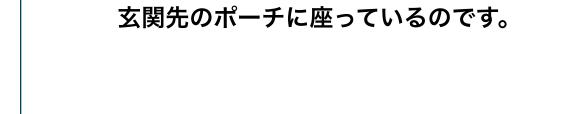
野良猫ではなくて、 どちらさんかに飼われているらしい猫。

じゃあまたね、そういって僕たちは別れた。 話していたら、夜が明けた。

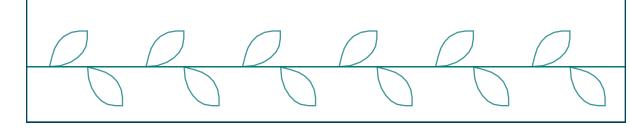


最近、うちによく猫がきます。

ホームに滑り込む車体は夕陽を浴びて鈍く煌めく。



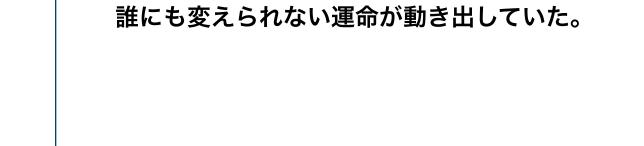
とてもお行儀よく



厚い雲だったけど、日の出はちゃんと綺麗だった。

「大丈夫よ、お疲れ様ね。」

それは誰の声よりも励みになる声だった。



青空の向こうに雲が見え始めていた。

いつでも、どこでも、誰もが、マスク。

「ん…ああ、すいません。急ぎます。」

「そろそろ閉館ですよ、起きて。」

あそびかた

この紙には白紙の部分(3個)を含めて24個の物語が印刷 されています。それぞれを切り抜いて、あなただけの物語を 構成してみましょう…

模様に着目するのもいいかもしれません。

バラバラの文章を文章を物語を再構成する喜びを、紙を切る 音とともにお楽しみください。

「また明日」が言えるのも、これが最後。

こんな状況だから、たぶん、

